

ほけんだより

令和6年7月発行
学校法人織田学園

おだ認定こども園

☆月曜・水曜は爪チェックデー☆

- 6月感染症等：溶連菌感染症、流行性結膜炎（はやり目）、胃腸炎、パラインフルエンザ、ほかに高熱・咳の風邪
- 地域では『手足口病』が流行し始めています。

『熱中症ゼロ』の夏に！

- 園庭でセミの鳴く声が聞こえ始め、6月最終週には『熱中症警戒アラート』が発令されるなど、梅雨の晴れ間には、熱中症に注意が必要な気候になっています。

子どもの熱中症は周囲の人が、顔色や汗のかき方を注意してみることで防ぐことができます。『朝食を食べていない』『寝不足』など朝の体調情報は、保育中の観察の参考になりますのでお知らせください。

- 日本気象協会推進「熱中症ゼロへ」プロジェクト公式サイト →



『みずいぼ』の対応について

- 『みずいぼ』は、ウイルスによる皮膚感染症で、免疫がつき治るまで1年前後かかります。
- 肌のバリア機能低下で広がりやすく、ひっかく傷から増えます。数が少ない間に皮膚科受診し、相談しましょう。最近は小児科・皮膚科ともに、治るのを待つ方針のことが多いようです。
- 登園の注意は？：水いぼが大きくなりつぶれそうな時は保護して、こまめに爪を整えて下さい。
- 水遊び・泥遊び・プール：他のお子さんと接触した時破れそうな物は、長袖のラッシュガードや注射後のシール状絆創膏等を使用するなど、直接触れない配慮をお願いします。
- その他対応方法やご心配な事は、担任や看護師にご相談下さい。



『水筒』の安全対策 園での取り組みとお願い

園の水筒の取り扱い

年少上の学年は、通年で毎日水筒を持参し、夏は熱中症対策として、冬は乾燥や感染症対策として『のどが渇く前に水を飲む習慣づくり』をしています。

水筒の安全対策について、消費者庁から事故事例とともに注意喚起がありました。（詳細は下記消費者庁ホームページ参照）

水筒の安全に関して園で配慮している事は、

- ・水筒を持ったまま遊ばない・走らない指導 斜めがけで持つ時は後ろにまわす
 - ・登園・降園時や、園外保育では、リュックサックなどカバンに入れて移動する
 - ・園で使用する水筒は『プラスチック製』
- 取り扱いがしやすく、飲むと軽くなる事で、中身が減る事に子どもが自然と気づきます。



衛生面を考え、昼に園で麦茶を補充しています。

参考：消費者庁『水筒を持ち歩く時の転倒事故に注意』

保護者の皆様へお願い

保育中のお子さんの安全のために、保護者の皆様へお願いがあります。

- 1) 園で使用する水筒は、年少・年中の学年はプラスチック製で、容量500ml程度のものでして下さい。取り扱いやルールに慣れ、飲む量が増える年長では、ステンレスの物で構いませんが、必ず底にカバーが付いたものにして下さい。
- 2) 中身は水か麦茶で、冷たすぎないものをこまめに飲む習慣をつくっています。
- 3) 登園・降園時は通園かばんの中に入れて持ち運ぶ習慣にしましょう。
- 4) 衛生状態を保つとともに、壊れたまま使う事がないように点検をお願いします。

